特集

地域おこし協力隊員と市長が語る 伊賀市の可能性

【問い合わせ】 地域創生課 ☎22-9623 FAX 22-9672 ✉chisou@city.iga.lg.jp

（左から）地域おこし協力隊員 辻 竜平（つじ りゅうへい）さん（伊賀上野DMO）、伊藤 真弓（いとう まゆみ）さん（伊賀上野DMO）、吉田 恭子（よしだ きょうこ）さん（博要地域）、岡本市長

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域などに住民票を異動し、地域の課題解決や地域振興などの活動を行います。現在、伊賀市では3人の隊員が活動しています。そこで、これまでの活動や今後の目標、また活動を通して感じた伊賀市の魅力や可能性について市長と語っていただきました。

地域おこし協力隊としての活動

市長 こんにちは。本日はよろしくお願いします。吉田さんは博要地域で地域外から来る人を受け入れる活動をされているのですよね。

吉田 そうです。主なミッションは空き家を利活用した移住と交流人口を増やすための取り組みと、それをSNSで発信することです。今年の1月には地域の人と協力して移住体験施設を設置しました。

市長 素晴らしいですね。現在、取り組んでいることはありますか。

吉田 伊賀には「伊賀米」というブランド米がありますが、その中でも博要地域のお米は伊賀の中でも標高が高く水がきれいな源流地域で作られているのでとてもおいしいんです。名前を「瑞雫（すいな）」と言うのですが、源流の一滴をお米に見立てて博要独自のブランド米として展開できないか、地域の皆さんと話し合っています。自分たちで何かを売っていくというのはとてもハードルが高いと思われていたのですが、例えばオンラインストアで販売するという方法もあるからやってみませんか、ということを提案しています。

市長 「やったらできるやん」ということを、一緒に考えているのですね。伊藤さんは伊賀上野DMOで活動されていますが、どうですか。

伊藤 私はもともと歴史が好きで、伊賀が忍者で有名なのは知っていました。伊賀には観光のコンテンツがたくさんあるので、あり過ぎてどこに打ち出したら良いのか、そういうのがぜいたくな悩みだなっていうのを強く感じました。

私は伊賀に来る前はオーストラリアに語学留学をしていて、忍者のイメージをオーストラリアの友人に聞いていました。「忍者」という単語は全世界の人が知っています。アニメや映画などで忍者を題材にしたコンテンツがたくさんあるので、子どもから大人まで忍者自体の知名度は高いです。でも、それが伊賀に結びついていないため、伊賀という地名は知られていないということを来る前から感じていました。

市長 アフターコロナでインバウンドも回復してきて、たくさんの外国人が日本に来ています。忍者が好きな人もたくさんいると思いますが、それほど伊賀には来ていないと感じます。忍者は好きだけど、その聖地が伊賀であるということに重なっていない。私はそこが悔しいと感じています。

伊藤 市長がおっしゃる通りで、外国の人に「忍者を知っていますか」と聞くと、「知っている」と多くの人が答えますが、「じゃあ伊賀は知っていますか」と聞くと、「知らない」という回答になるんです。伊賀が大阪と名古屋の間にあると言うと驚くんですよね。そこで私は、「忍者体験施設とかは全国にたくさんあるけど、忍者のルーツは伊賀であって、そこから派生しているんだよ」と説明しています。

外から見た伊賀・中から見た伊賀

市長 辻さんはもともと伊賀の出身ですよね。戻ってきて感じた伊賀の印象はどうですか。

辻 大きくは変わっていないという印象です。新しい店などもできていますが、良い意味でそのまま残っているなと感じました。

市長 私も高校生のころは早く出ていきたいと思い東京へ行ったけど、出てみたら伊賀がとても良いところだと思いました。外に出るとふるさとの見方って変わりますよね。私が今、この仕事をしているのも結局はそういうことなのだな、と思います。これまでの活動を通して感じた伊賀に足りないと思うものは何かありますか。

辻 伊賀にはたくさんの魅力があるのに、それを外に伝える力、情報発信ツールを使いこなせていないところだと思います。まだまだできることがたくさんあると思います。

市長 吉田さんは、どうですか。

吉田 実は伊賀に来る前、私は伊賀に何の印象もなかったんです。やはり全国的な認知度がまだ少ないということだと思います。なぜもっと発信をしてこなかったのかな、と思います。

市長 伊賀の人は良く言えば慎み深い、でしゃばらない。反対に、自分を前に出すことがなかなかできないところもあると思います。でも、外国の人は自分を前に出すということがとても上手ですよね。

伊藤 そうですね。例えば海外の企業の広告だと「私たちはあなたの力になります」と言う場合に、「こんなに素晴らしい私たちがあなたを…」というような表現を見かけたことがあります。一見、厚かましく感じますが、でもそのくらい堂々と自分たちのことを前面に出しますよね。まだまだ伊賀は出し切れていないと感じます。

市長 皆さんのお話を聞いていると、やはり情報発信の大切さを強く感じます。辻さんはマーケティングを担当しているので、データに基づいていろいろと分析していると思いますが、分析から見えてくるものをどう観光に活用したら良いと思いますか。辻さんだったらどんなことを提言したいですか。

辻 やはり外に対する情報発信が重要だと言えます。特に海外となるとハードルが高いと感じます。伊藤さんのように英語が堪能な人や、マーケティングに長けた人を呼んできたり、伊賀で人材を育てたりして、活躍できる人を増やしていくことが必要だと思います。

市長 人材育成も重要なことですよね。

「観光だけ」じゃない！伊賀の伸びしろ

市長 先ほどからインバウンドの話がありましたが、例えば、飛騨高山ではいわゆる観光ではなく、普通の日常の暮らしを求めて外国の人がたくさん来ているそうです。伊賀にも忍者やお城、お祭りなどの観光資源があるけれど、普通の暮らしにも興味深いものがあると感じませんか。

吉田 そうですね。以前、伊藤さんとお話ししたことがあるのですが、海外の人は日常の暮らしを垣間見ることに、すごく喜びを感じてくれます。

市長 旧郡部や街中での暮らしにスポットがあたることはなかなかないので、ここはやっていくべきことだと思うし、伸びしろが随分あると感じています。また、それによって地域の元気にもつながっていくと思いますが、皆さんはどう思いますか。

吉田 例えば、伊賀市を訪れた人が、中心市街地に行く交通の手段はたくさんあるけど、そこから同じ日に旧郡部にも行こうとすると交通の

手段がかなり少ないんですよね。今後は伊賀市全体として、何かしらのツアーをしていきたいと思います。中心市街地と旧郡部を結ぶツアーを交通網も含めて企画していきたいです。

伊藤　私も海外へ行ったら、地元のローカルなお店に行きたい気持ちになります。それと同じで、海外の人が日本に来たときに、例えば菜食主義のヴィーガンやベジタリアンの人は食べ物に困ることが多いそうですが、日本の地元のお店は、豆腐の種類がとても多いことに驚くそうです。日本に住んでいると当たり前に感じることでも、感激してくれるポイントはたくさんあります。

市長　私も海外旅行に行くとその町の市場に行って、その土地のものを見て食べるのがおもしろいと感じます。そう思うと、伊賀にはまだまだ伸びしろがありますよね。ぜひ、この辺りをデータ分析して提案していってほしいと思います。

何をどう伝える？ 情報発信の大切さ

市長　ところで、皆さんはどうやって情報発信をしているのですか。

吉田　主にインスタグラムで発信しています。ストーリー機能を含めれば、ほぼ毎日投稿しています。

市長　投稿はこまめさが大事ですよね。見る人は何か新しい話題があるかどうか常にチェックしますから、「まだ更新されてないのか」と思われてはだめですよね。

伊藤　私は、当初「伊賀イド」という市の観光ウェブサイトのSNSを担当していたのですが、他の業務もあったりして、更新頻度は大事だと思う割には、なかなか投稿できていませんでした。今は辻さんも隊員として来てくれたので、投稿の方法をより深く話すようになり、今ちょうどSNSをどのように運営するか話し合っているところです。

市長　一人より二人、二人より三人で、お互いに協力していくことが大事ですね。これからどんなことをやっていきたいですか。

吉田　これまではイベントの準備で手いっぱいになることが多かったので、もっと対外的にPRをして、外部からたくさんの人に来てもらえるイベントを開催したいです。

市長　海外の人が伊賀の暮らしを体験できるような催しなんかも、ぜひモデルケースでやっていただきたいと思います。

吉田　それはぜひやってみたいですね。

市長　来る人が何を求めているのかをしっかり理解した上で、受け入れ体制や設備を整えることが重要だと思います。伊藤さんは伊賀に行きたいという外国の人がいたら、どんな知識を伝えてどんなところを案内したいですか。

伊藤　私が海外の友達にいつも言っていることなのですが、伊賀が他のところと違うのは、伊賀は忍者が本当に住んでいた街だということです。街全体がアトラクションになり得て、例えば「伊賀に自生している野草は忍者も食べていたかもしれない」とか、どこをとっても全部が忍者につながっていくんですよね。私は歴史が好きなので、どこかへ行くとその場所の歴史に思いをはせたりします。それと同じことが伊賀でもできると思っているので、見えるものだけではなく、リアルな歴史がある場所だと感じてもらえるような部分も伝えたいと思います。

市長　辻さんは今後どんなことをやりたいですか。

辻　若手の力をもっと活用していきたいという思いがあります。若い人たちが興味を持つ仕事を自ら創出し、外から来てもらったり、学生が伊賀に残りたいと思えるようにしたいです。

市長　お互いに協力すると、おもしろいことがいろいろできそうですね。今日お話を聞かせていただいて、お三方それぞれに思いや考えがありますが、きっとめざすところは同じなのかな、と感じました。今日を機会に、三人が一緒になって知恵を出し合いながらこれからも頑張ってください。大いに期待しています。ありがとうございました。

隊員　ありがとうございました。

　このように、地域おこし協力隊は地域力を維持するため、地域の皆さんと連携・協力しながら活動します。地域おこし協力隊の受け入れについてのご相談は地域創生課までお問い合わせください。

カラダにいいこと始めませんか？「伊賀市健康マイレージ」

◆健康マイレージって？

　自分で目標を決めて健康づくりに取り組み、ポイントを貯めると抽選で賞品が当たります。市内在住・在勤・在学の18歳以上の人が対象です。

◆健康目標にチャレンジして賞品を当てよう！

　健康目標を決めて取り組み、1日1ポイント貯めましょう。（毎日違う目標でも可）1日のうちに複数内容を達成しても、1日1ポイントです。

（例）1日6,000歩あるく／たばこを吸わない

◆ポイントの貯め方・応募方法

○LINE公式アカウントのショップカード機能利用の場合：

　健康目標を達成したら、トーク画面下の「メニュー」➡「ポイントGET」ボタンをタップしてポイントを貯める。50ポイント貯まったら、トーク画面下の「メニュー」➡「応募する」ボタンから応募

○応募券（紙のポイントカード）利用の場合：

　応募券に自分で決めた健康目標、達成した日を記入。ポイントが貯まったら、応募券に必要事項を記入の上、下記まで持参または郵送

（持参先）伊賀市保健センター（ハイトピア伊賀4階）、地域包括支援センター東部サテライト（伊賀支所内）、南部サテライト（青山複合施設アオーネ内）

（郵送先）〒518-0873 伊賀市上野丸之内500　ハイトピア伊賀4階　伊賀市保健センター「健康マイレージ」係

【応募期間】

　9月1日㈰～12月28日㈯　※当日消印有効

※ショップカード機能の使い方など詳しくは、案内チラシまたは市ホームページをご覧ください。応募券は保健センター窓口にあるほか、市ホームページからダウンロードできます。

いが忍にん健康プロジェクト公式アカウント
友だち募集中！
ID検索　@phs4120r
二次元コードを読み取りまたはID検索で友だち追加

【問い合わせ】　健康推進課　☎22-9653　FAX 22-9666　✉kenkousuishin@city.iga.lg.jp

日頃から大地震に備えよう

　1月1日に発生した能登半島地震では、建物の倒壊やライフラインの寸断など多くの被害が出ました。伊賀市でも南海トラフ巨大地震や市内を通る頓宮（とんぐう）断層で内陸直下型地震が発生すれば、大きな被害が出ることが想定されます。

　今後30年以内に南海トラフ巨大地震が発生する確率は70～80%と予測されており、いつ発生してもおかしくない状況です。巨大地震が起こる前に日頃から、家の中の家具の安全や非常持ち出し袋を確認しましょう。

◆想定される被害

伊賀市最大震度 6強

	建物被害（全壊）	死者	負傷者
南海トラフ地震	約1,900棟	約100人	約1,000人
頓宮断層地震	約4,500棟	約200人	約2,300人

出典：伊賀市地域防災計画

【問い合わせ】　防災危機対策局　☎22-9640　FAX 24-0444　✉kikikanri@city.iga.lg.jp